

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニューズレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0619 ◆◆◆

21/01/20

【 日米の陰で囁かれる「欧州の政治情勢」不安 】

金融市場の参加者のあいだでは、現地時間 20 日に実施されるバイデン新米大統領の就任式が注視されている。現地メディアの報道によると、6 日に「トランプ支持者が米議会に侵入」という事件があったこともあり、首都ワシントンは数日前から厳戒態勢。2 万 5000 人ももの大量の州兵が導入される見通しだという。

そんな米国のほか、支持率がダダ下がり菅政権など日本の政局も風雲急を告げる様相を呈しているが、実はそれ以外、とくに欧州における政治情勢も要注意だ。今回の当レターでは、そんな欧州の政治情勢にのなかから 3 つをピックアップして報じてみたいと思う。まず、最初に今年の世界の選挙見通しを挙げておく。

1 月 米ジョージア州上院議員選挙	5 月 英地方議会選挙	9 月 香港立法議会選挙
1 月 ドイツ・与党CDU党首選	9 月 ノルウェー議会選挙	9-10 月(?)
1 月 ポルトガル大統領選挙	9 月 ドイツ連邦議会選挙	日本の衆院選
3 月 オランダ総選挙	9 月 ロシア下院選挙・統一地方選挙	

<< ドイツ >>

2005 年より 15 年ものあいだドイツを率いてきたメルケル首相は、今年の任期満了をもって政界を引退することを明言している。

その後継者について、ここ 1-2 年は紆余曲折があり、なかなか決まらなかったものの、先日実施されたキリスト教民主同盟(CDU)党首選では、中道派のラシェット氏が選出されている。ちなみに、同氏はメルケル首相に近い人物とされ、党員が変化より安定を選び、中道路線の維持が再確認されたようだ。

しかし、このあとラシェット次期党首がすんなりと「次期ドイツ首相」となるのかについては、疑問を抱く向きも多い。早ければ、3 月か 4 月に実施される姉妹政党・キリスト教社会同盟(CSU)との話し合い、次の連邦議会選挙の顔となる首相候補決定時に「ダメという烙印を押される」可能性も取り沙汰されているという。そして、その場合にはCSUの党首、バイエルン州首相のゼーダー氏を首相候補に担ぐ動きが強まるものと予想されている。

いずれにしても、昨年日本に続き、今年は米国そしてドイツという世界の主軸先進国で、国のトップが変わることになる。依然としてコロナ禍に見舞われる環境下、新たな各国リーダーの手腕に要注目だ。

<< 英国 >>

以前にも報じたことがある「ジョンソン英首相の辞任計画」が、一部で再燃しているという。

その理由は大きく 2 つあるとみられ、ひとつは首相の側近で上級顧問を務めるカミングス氏の義父が「辞任計画」を英紙に対し述べたとされる第一報が伝えられたものが昨年 8 月末であり、そこでは「新型コロナウイルス感染症の後遺症に苦しみ、完全には回復しないため、来年初めに辞任する計画だと語った」一などとしていたためだ。日柄的には確かに「要注意ゾーン」に到達しているといえるかもしれない。

また、もうひとつは前述した上級顧問で最側近とされるカミングス氏が、昨年末で辞任したことなどを挙げる向きもある。ちなみに、この件について、英メディアは「政権の内紛が激化した結果」と報じており、そののちも「新型コロナ対策」など、現在に至るジョンソン首相の政権運営にも疑問を抱く声は少なくない。支持率の浮上などを目的に一度出直しを図る可能性は確かにありえないでもなさそうだ。

一方、仮にジョンソン首相が辞任した場合、ラブ外相がその後任者となると見られているが、果たしてどうなるのか。予断は許さず、不測の事態に備えて十分な注意を払いたい。

<< オランダ >>

オランダの現地メディアは、同国のルッテ内閣が総辞職する見通しだと報じている。育児給付をめぐる連立政権内の対立が理由で、その責任をとった格好だ。

先の一覧にも示したように、オランダでは 3 月(17 日)に総選挙が予定されており、それに向けた 2 ヶ月ほ

